

「山岳遭難者の救助に向けた技術開発と今後の展望」セミナーを開催 ～登山愛好家、山岳救助関係者、通信事業者など約70名が参加～



セミナーの様子

北陸情報通信協議会は、平成29年5月31日（金）、総務省北陸総合通信局及び富山県立大学とともに、「山岳遭難者の救助に向けた技術開発と今後の展望」セミナーを富山県民会館にて開催しました。

はじめに、日本勤労者山岳連盟の川嶋高志事務局長が、近年山岳遭難が増加していること、遭難する一番の原因は道に迷うこと、遭難時の連絡には携帯電話が有効であるが必ずしも通話エリアとは限らないこと、バッテリーが切れてしまう場合があることなどを紹介しました。

次に、富山県立大学の石坂圭吾准教授が登山者位置検知システムを紹介、立山周辺の携帯電話がつかない場所での実証試験で、(1)遭難者から登山者端末のボタン操作で救助要請・その位置を地図に表示・短文メッセージで返信すること、(2)検索者からの指示で遭難者の位置情報を地図に表示させること、(3)遭難者からの電波が検索者に届かない場合、間にいる他の登山者端末で電波を中継し検索者に救助要請・地図上に表示すること、が確認できたことから遭難者の迅速かつ確実な救助に有効であることを報告しました。

最後に、北陸電気工業(株)開発本部の本真義博主任が、本システムの特徴として登山者の位置の取得、救助要請信号の伝送に加えて「受診確認を短文メッセージで伝送」「電波が届かない場合、間にいる他の端末で中継して伝送」などの機能があること、今後は通信可能距離の延伸、登山者端末の小型化に取り組むことを報告しました。

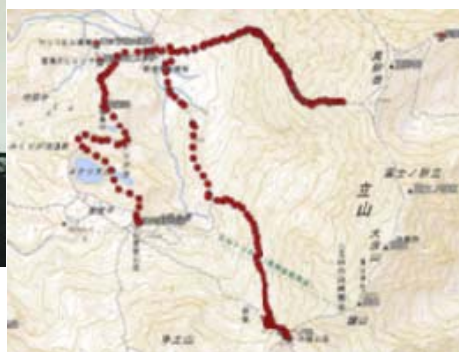
セミナーには、登山愛好家、山岳救助関係者、通信事業者など約70名が参加、アンケート回答者のうち9割以上が当セミナーは参考となったと回答するなど関心の高さがうかがえました。



日本勤労者山岳連盟
事務局長 川嶋高志 氏



富山県立大学
准教授 石坂圭吾 氏



登山者位置の地図表示



北陸電気工業 本真義博 氏



登山者位置検知システム

USBでPC・タブレット
等と接続可

端末
（検索者端末と
登山者端末は
外観は同一）

緊急時ボタン